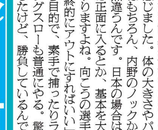
（C）日刊スポーツ新聞社

2014.7.23→2020.7.24

◆五輪メダリスト◆吉田義勝（としたか・よしかつ）64年東京大会レスリング・フリースタイル（フリー）級金。日本人4年代表で抜てきされ、日本キーマンのリフトアップ（フリー）を倒して優勝。卒業後は明治乳業に入社、本社取締役、明治乳製販売では社長も務めた。

次回16日(水)　東京五輪を守れ!・セキュリティー(上)



アマにもチャンスを!!

96年アトランタ銀

2020年東京五輪へ 300人リレーコラム 84人目 担当は 北島康介 自年

ミスター社会人野球（ホンダ）

西郷 泰之氏 43

アマチュア野球をやっている選手にとって、全日本に入ってオリンピックに出るのは大きな目標でした。当時は社会人でも出られるチャンスがあって、私が出場した96年のアトランタ大会は銀メダル。とても幸せな経験でしたね。

キューバや米国など強豪国が本の常識とは世界の常識ではないと強く感じました。体の大きさやパワーはもちろん、内野のノックから全然違うんです。日本の場合は打球の正面に入ると、基本を大事にやりますよね。向こうの選手は最終的にアウトにすればいい、という感じ。ボールを捕ったらランニングスローも豊富にやる。驚きましたけど、勝負しているんです。すよね、自分もいろいろなプレー参加が認められて、アマチュアから選ばれるとは嬉っていきます。プロの一員として、必死に練習しようという気持ちになった。勝つためには、技術の高い選手を入れるのは当然です。でも、若いうちにも、ぜひ目指してほしい。自分の幅を広げるためにも、海外の枠にこられないプレーを見ることは大切です。本当にとってからです。本人、例えばすけど、プロの1軍のすごい選手たちと定期的に試合をして活躍できれば、きっかけはプロとアマチュアの一緒に日の丸を背負って戦うオリンピックを、もう一度だいですね。

東京への復活ロード

聖地 Jヴィレッジと歩む

現在は原発事故収束拠点も…日本代表事前合宿地に決定

中1から震災起きた高2の3月まで「JFAアカデミー福島」1期生として汗を流した思い出の場所

J・ヴィレッジの外観。再開に向けた作業のために足場が組まれ、ネットで覆われている

震災前の J-VILLAGE フィールド

入り口を入ってすぐのロビー。地元の中学校からのメッセージが掲げられている

建物内にある震災前の写真

建物内にある震災後の写真

東京五輪が「聖地復活の象徴」としたJヴィレッジ。日本女子サッカーリーグ事務局も決定的な会場として、「東京五輪決定が大きなカギとなった。震災から5年、少しずつ積み上げてきた。復活への歩みが、著しくきた」と話した。福島県が誇る最大のトレーニングセンターとして、11面の天然芝ピッチや雨天練習場などを備える国内最大級の施設は、震災前の約20年、事故収束拠点となった。ピッチはコンクリートが敷かれ、駐車場になり、今も除染作業員を乗せるバスが行き来する。それでも、復活を願う声は根強かった。女子サッカーの聖地だからだ。開設当時、約2億円といわれる男子代表の強化費に対し、女子代表はわずか1500万円。高校生のように、地方の中学校からのメッセージが掲げられている。

ピッチは駐車場に…コンクリも敷かれて

6番ピッチに置かれた器具

駐車場として使われている第3ピッチ。選手ベンチに名残がある

初のナショナルトレセン

◆J・ヴィレッジ　1997年にオープンした日本サッカー界初のナショナルトレーニングセンター。約50%の敷地内に12面のグラウンドや屋根付き練習場、宿泊施設を備える。東京電力が福島第1原発の増設計画に伴い、地域振興として福島県に寄贈した。元イングランド代表のポビー・チャールトン氏が命名。原発事故後は、東電の要請で対応拠点として使われてきた。

本社の年度方針の高岡幹部転勤が決まり、7日から業務を開始した。日本サッカー協会も、20年東京五輪での日本代表の事前合宿地に決定。2年後の2018年2月に「女子サッカー」を整備し、18年7月に「男子サッカー」を整備し、19年4月までに全面再開を目指して動いている。心配される放射線量も国の基準値を下回り、除染も進んでいる。Jヴィレッジ側は「ようやくスタートラインに立てた。ハードの面は整ってきた。県や協会、多くの人の協力を得て進めていきたい」と話した。

Jヴィレッジの歩みは、震災前の2010年1月、J1ヴィレッジ対J1ヴィレッジの「ナショナルトレセンVS選抜」で幕を開けた。11年のお披びたJヴィレッジの思い出は、ピッチ上で、ボールを蹴り、ゴールを決めるJリーグ選手たちの姿だ。ショッピングモールでは、変わり果てた現在（人工芝）の姿を見て、ファンの人たちは、それぞれ胸中に思いを巡らせる。福島県内の被災地は、「復興」の名の下に、次々と、新たな開発が進められている。Jヴィレッジの思いは、福島県の人たちの思いでもある。今年1月、東京電力福島復興本社の小野祐哉本部長は言う。「14、60人近くいた職員が今は1人。復旧、除染、廃炉の計画はできたが、県や協会、多くの人の協力を得て進めていきたい。7日、大阪で行われる『東京オリンピック・パラリンピック特別委員会』で、Jヴィレッジの復活を報告する。東京五輪は、『復興』を世界へ発信する大会。福島の人たちの思いを、Jヴィレッジの復活を通じて、世界へ発信したい。『復興』を世界へ発信する大会。福島の人たちの思いを、Jヴィレッジの復活を通じて、世界へ発信したい。」

福島に戻り東京の舞台に立つ　同時に2つの夢がある

田中陽子

3・11から3年後 成人式で再び青春の地へ

14年1月12日、福島・楢葉町の成人式に出席した田中陽子。左はJFAアカデミー福島1期生同期の川島はるな。2人はうちのジマスデラ神奈川相模原で一緒にプレーする

12年8月、U－20女子W杯・韓国戦でゴールを決めた田中

故郷のために向かしたい

11年3月11日、田中は青春時代の拠点を失った。福島・Jヴィレッジ、中学1年から震災の起きた高校2年の3月まで、エリート選手育成のために設立された「JFAアカデミー福島」の1期生として汗を流していた。しかし、福島第1原発事故により、収束のための最前線となった。

故郷のために何かしたいなら、東京オリンピックに出て、福島の人たちに、元気を届けたい。

11年に日本代表に選出され、注目を集めていた。なぜ、「故郷」の現状を伝えたいという思いがあった。それも、振り捨てきれない、友人と楽しそうに過ごす笑顔の裏には、悲しさを隠していた。

富岡の寮も人はいない。Jヴィレッジのピッチは駐車場になっていて…駅もガラガラ。なぜ、何ひとつ、何よりも安心できるはずの場所が、なぜ、何ひとつ、何よりも安心できるはずの場所が、なぜ、何ひとつ、何よりも安心できるはずの場所が、